



# 教えて！

# 新しい財務書類

財政課 224-5618

現在の地方公共団体の会計制度は、その年にどのような収入があり、それを何に使ったかという現金の動きが分かりやすい仕組みになっています。しかし、市が今まで整備した資産や、行政サービスのコストがどのくらいかかっているかという情報は、分かりにくい点があります。そこで、国が示した基準に基づき、市の資産・負債などの状況や、行政サービスのコストがどのくらいかかっているかなどを表した、四つの財務書類を作成しました。今回お知らせする内容は、総務省方式改訂モデルで作成した平成20年度決算に基づく普通会計(\*)の財務書類です。財務書類・連結財務書類について詳しくは、市ホームページで公表しています。

## ~~~~ 1 貸借対照表 ~~~~

施設、道路、現金や債権など市が所有する財産(資産)と、その財産を形成するための借金残額(負債)、すでに支払い済みの額(純資産)を示したものです。

<b>資産 3,519億円</b>	<b>負債 1,032億9,000万円</b>
<b>市の所有資産内訳</b>	<b>将来負担で返済する債務 = 地方債、退職手当引当金など</b>
● 公共資産 = 道路・公園・学校など 3,267億9,000万円	うち地方債 814億3,000万円
● 投資等 = 基金、出資金など 198億3,000万円	<b>純資産 2,486億1,000万円</b>
● 流動資産 = 現金預金・未収金など 52億8,000万円	<b>今までの負担額 = 資産形成に使った市税、国・県補助金など</b>
うち現金 29億5,000万円	

## ~~~~ 2 行政コスト計算書 ~~~~

福祉サービスやごみの収集のように、資産形成と関係のない行政サービスを行うために、1年間にかかった費用と、使用料・手数料などの収入を示したものです。

<b>経常行政コスト(A)</b>	<b>785億1,000万円</b>
(内訳)	
● 人にかかるコスト(職員給与・退職手当など)	196億6,000万円
● 物にかかるコスト(物品購入・減価償却費など)	232億1,000万円
● 移転支的コスト(社会保障費・補助金など)	338億2,000万円
● その他のコスト(地方債の利子など)	18億2,000万円
<b>経常収益(B) (使用料・手数料、分担金・負担金)</b>	<b>27億1,000万円</b>
<b>純経常行政コスト(A)-(B)</b>	<b>758億円</b>

### 市民1人当たりになると……

平成21年3月31日現在、住民基本台帳人口は333,003人。

市民1人当たりの資産は 105万7,000円

負債は 31万円

純資産は 74万7,000円となります。

同20年度中、市が行った行政サービス(純経常行政コスト)は、1人当たり22万8,000円かかっていることとなります。

## ~~~~ 4 資金収支計算書 ~~~~

1年間の市の資金(収入と支出)が、どのような内容で増減しているかを、項目別に示したものです。

<b>平成19年度末歳計現金残高</b>	<b>30億4,000万円</b>
<b>同20年度収支額</b>	<b>△9,000万円</b>
(内訳)	
● 経常的収支	96億7,000万円
● 公共資産整備収支	△24億7,000万円
● 投資・財務的収支	△72億9,000万円
<b>同20年度末歳計現金残高</b>	<b>29億5,000万円</b>

## ~~~~ 3 純資産変動計算書 ~~~~

1 貸借対照表の純資産が、1年間にどのような内容で増減したかを示したものです。

<b>平成19年度末純資産残高</b>	<b>2,442億6,000万円</b>
<b>同20年度変動額</b>	<b>43億5,000万円</b>
(内訳)	
● 純経常行政コスト	△758億円
● 一般財源(市税など)	651億9,000万円
● 国・県補助金など	140億9,000万円
● その他	8億7,000万円
<b>同20年度末純資産残高</b>	<b>2,486億1,000万円</b>

\* 普通会計=統計上の会計で、一般会計に診療事業会計・母子寡婦福祉資金貸付事業会計を加えたもの。

## ❀❀❀ 財務書類を、家計に例えると…… ❀❀❀

財務書類を家計に例えると、どうなるでしょうか？

❶「貸借対照表」は、ある時点での家庭の財産(資産)や、住宅ローン残高など(負債)、頭金などの負担済み額など(純資産)を示したものです。

❷「行政コスト計算書」は、生活費などの日常的にかかる現金支出と、現金支出を伴わない費用が、1年間でどれだけかかっているかを示したものです。現金支出には、家や車などの財産になる支出は含まれません。また、現金支出を伴わない費用とは、減価償却費(下の解説参照)のことでです。

❸「純資産変動計算書」は、ある時点での家庭の財

産のうち、すでに支払いを終えたものが、1年間にどのような内容で増減したかを示しています。

❹「資金収支計算書」は、家計での家計簿にあたります。1年間の現金の収入と支出を①日常生活の収支(経常的収支)、②財産購入の収支(公共資産整備収支)、③借金返済や資金運用(投資・財務的収支)、に区別しています。

ここでは、財産(資産)や将来負担すべき債務(負債)などが分かる❶「貸借対照表」と、現金の流れや収支状況(黒字か赤字か)が分かる❹「資金収支計算書」を、年収500万円の小江戸家の家計に例えてみましょう。

### ●現金支出を伴わない費用「減価償却費」って、なに？

車を60万円で購入したとします。5年使用後に10万円で売却した場合、車の価値が1年ごとに10万円ずつ減少したことになります。価値が減少した10万円を、その年の費用として計上することが減価償却費です。この間は、物を購入したわけではないので、現金支出はありません。

## ❀❀❀ ❶小江戸家の貸借対照表 ❀❀❀

資産 1,840万円	負債 540万1,000円
<b>所有資産内訳</b> ●家・車・家具などの財産(公共資産) 1,708万7,000円 ●定期預金・株・積立保険など(投資等) 103万7,000円 ●タンス預金・普通預金など(流動資産) 27万6,000円 うち現金 15万4,000円	将来負担で返済する債務 = ローン残高・子供の進学費用など うちローン残高(地方債) 425万8,000円  <b>純資産 1,299万9,000円</b> 資産購入のための頭金など、すでに負担済みの額

資産1,840万円のうち、家・車・家具などは1,708万7,000円で、全体の約93%を占めています。

一方、まだ払い終わっていないローン残高や子供の将来にかかる費用などが540万1,000円あります。純資産は1,299万9,000円で、資産の約71%は支払いが終わっています。

## ❀❀❀ ❷小江戸家の家計簿(資金収支計算書) ❀❀❀

昨年末のタンス預金残高 15万9,000円  
(平成19年度末歳計現金残高)

今年の現金増減額 △5,000円  
(同20年度収支額)

(内訳)

●日常生活の収支 50万5,000円  
(経常的収支)

●財産購入の収支 △12万9,000円  
(公共資産整備収支)

●借金返済や資金運用 △38万1,000円  
(投資・財務的収支)

今年末のタンス預金残高 15万4,000円  
(同20年度末歳計現金残高)

小江戸家は、日常的な収支は黒字で、その分で財産購入や借金返済をしています。しかし、全体で見ると5,000円の赤字で、その分タンス預金を使いました。

■小江戸家の家計簿(資金収支計算書)を、収入と支出に分けて見てみると……

収支額	収入	支出
日常生活の収支(経常的収支) 50万5,000円	給与・パート収入、親からの仕送り(生活費分)など 412万7,000円	生活費(食費、医療費、子供への仕送り、自治会費など) 362万2,000円
財産購入の収支(公共資産整備収支) △12万9,000円	家の改築・車購入のためのローン借り入れ、親からの仕送り(増改築分)など 69万5,000円	家の改築や車・家具などの購入 82万4,000円
借金返済や資金運用(投資・財務的収支) △38万1,000円	使用しなくなった土地や車・株の売却など 17万8,000円	住宅ローンなどの借金返済、財形貯蓄など 55万9,000円